

【方針1】目標1 自分を大切にし、他人を思いやる気持ちなど、豊かな心を育む

5 【方針1】感性を豊かに働かせ、社会の中でたくましく生きていくことのできる子どもを育てる

目標1 自分を大切にし、他人を思いやる気持ちなど、豊かな心を育む

人と人々が支え合う社会の中で、自分の個性を伸ばし、可能性を広げ、多様な人々と協調しながら生きていくためには、自分を大切にできる気持ちとともに、他者を思いやる気持ちが必要です。

子どもを取り巻く環境の変化などから、規範意識や人間関係を形成する力の低下、さらには命を軽んじる風潮などがあります。

教育委員会では、人と関わり、ふれあう活動をはじめ、命を大切にできる教育の推進や道徳教育、読書教育を一層充実させることにより、社会の中でたくましく生きていくことのできる子どもの育成を目指します。そして、人と人とのあたたかい関わりの中で、家庭・学校・地域が目指す子ども像を共有し、連携・協働を通じて、豊かな心を育てていきます。

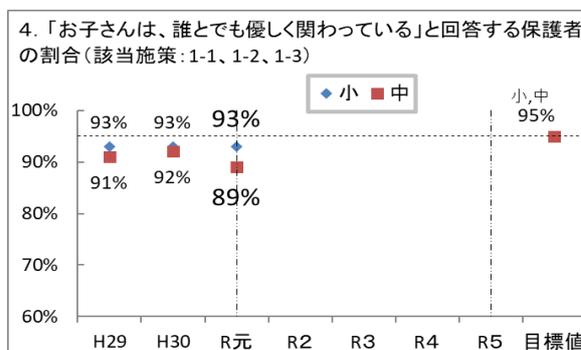
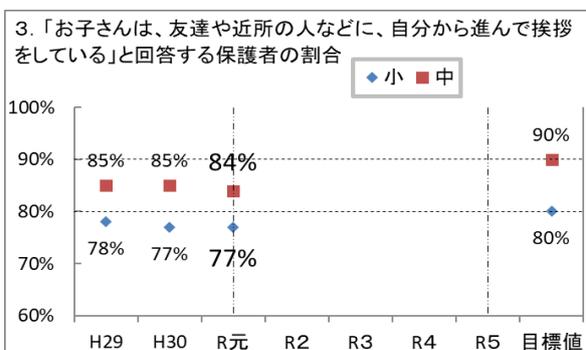
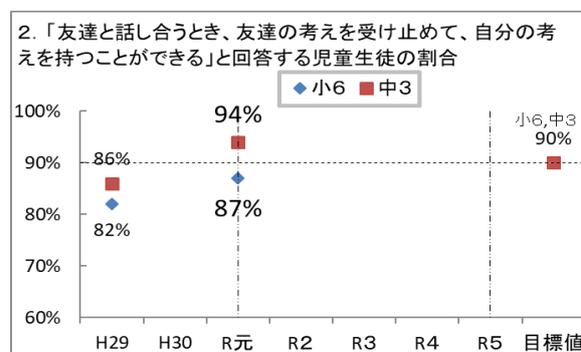
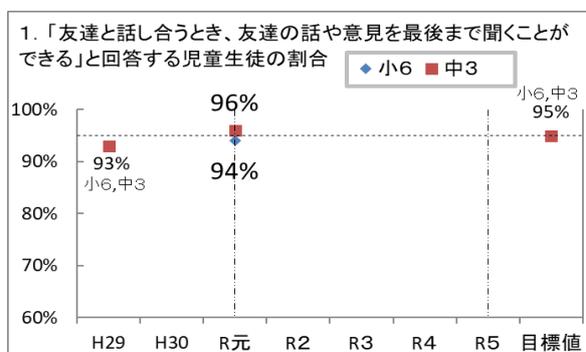
| 施策 | 評価 |
|----------------------------|----|
| 施策1 人と関わる力を身に付ける活動の充実 | ○ |
| 施策2 道徳教育の充実（命を大切にできる教育の推進） | ○ |
| 施策3 読書教育の推進 | △ |

| ▶施策1 人と関わる力を身に付ける活動の充実 | 評価 |
|--|----|
| 人と関わる力を身に付け、望ましい人間関係をつくるために、学校生活や地域活動などを通して、相手の話をよく聞いたり、自分の思いを相手に伝えたりして、互いの価値観を認め合う力を育成します。 | ○ |
| <p>【評価と今後の方向性】 施策の実現が概ね図られてきている。</p> <ul style="list-style-type: none"> 多くの教科領域で主体的・対話的で深い学びを意識した授業展開をしてきた。(指導課) 今後は、豊かな心を育む取組において、確認・状況把握を適切に行っていく。(指導課) | |

【主な事業・取組の実績】

- ・いちかわ学校三ヵ年計画について全校長・園長を対象として10月に面接を実施した。
- ・学力向上推進校2年目公開研究会を実施した。
- ・学校支援推進事業では、小学校・中学校・義務教育学校・特別支援学校で地域支援者約15,000名を活用し学習支援を実施した。
- ・すべての教科領域で、児童生徒が相手の考えを聴くことを重視した授業を推進した。
- ・各学校で「あいさつ運動」を実施するとともに、道徳教育の充実を図った。

【成果指標】



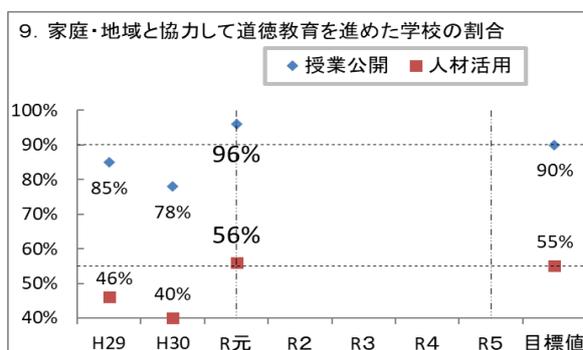
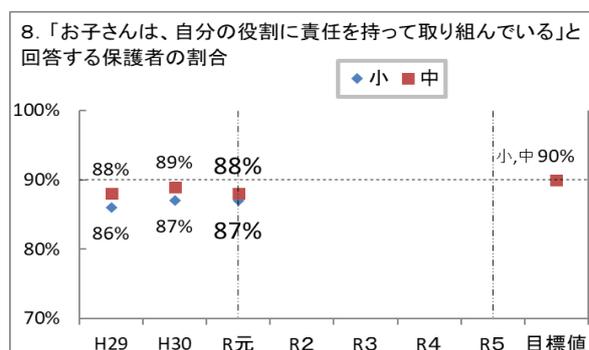
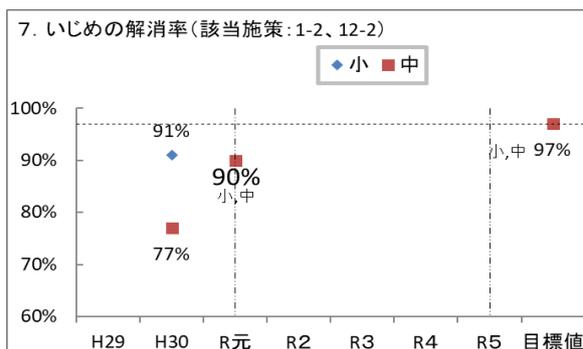
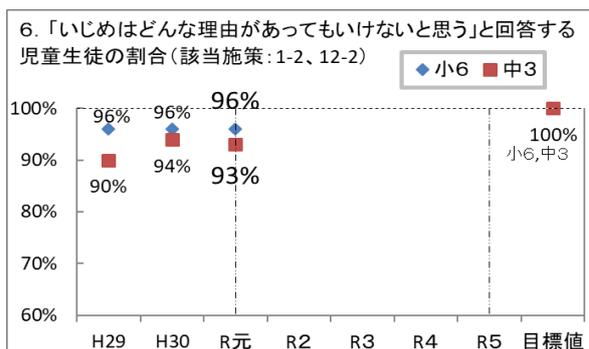
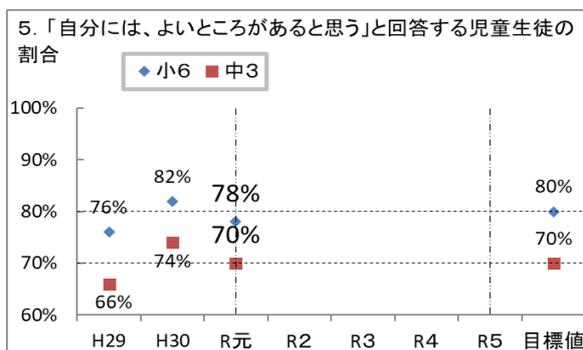
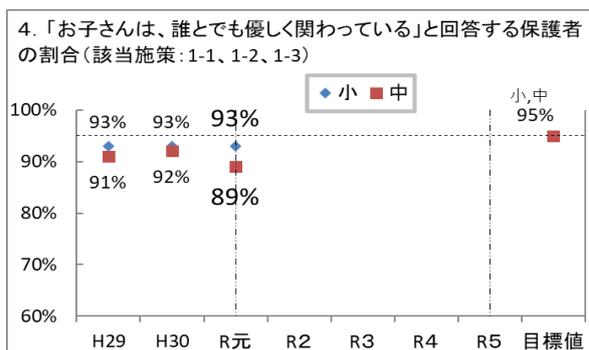
| ▶施策2 道徳教育の充実（命を大切にす教育の推進） | 評価 |
|---|----|
| <p>道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度など、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、特別の教科 道徳を中心に、学校の教育活動全体を通じた道徳教育の質の向上を図ります。</p> <p>自分の命はもちろん、他人の命も大切にす意識を育みます。自分の良いところをたくさん見つけ、それを伸ばしていくことで、自分はかけがえのない存在と認めることのできる教育を進めます。</p> <p>また、いじめをしない、させない、許さないなど、他人を思いやるあたたかい心を育成します。</p> | ○ |
| <p>【評価と今後の方向性】 施策の実現が概ね図られてきている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・臨時休校により1月～3月のいじめ認知件数が大幅に減少したことが主な要因となり、結果としていじめ解消率が上昇したものと考えられる。なお、「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸問題に関する調査」回答にあたっての留意事項には、いじめ解消の要件の一つに「いじめが止んで3ヶ月を目安とする」とあるため、1月～3月に起きたいじめは、調査時点（3/31）には解消件数に数えることはできない。また、小学校・中学校の「特別の教科 道徳」が教科化され、各学校の優れた取組の紹介や、授業改善の方法を示すことで、授業の質の向上を図ってきた。（指導課） ・今後は、新型コロナウイルス関連の偏見や精神的ストレスに起因するいじめに特に注意しながら、いじめの未然防止・早期発見・適切な対応に努めていく。さらに、「特別の教科 道徳」の学習を中心に、学校教育活動全体を通じた道徳教育の質の向上を図っていくとともに、自分はかけがえのない存在と認めることのできる教育を推進していく。（指導課） | |

【主な事業・取組の実績】

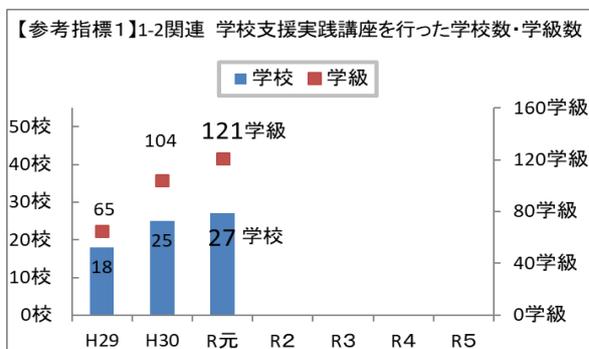
- ・市内の道徳教育推進担当教諭を対象に研修会を2回実施した。
- ・道徳教育全体計画を作成した。
- ・学校支援実践講座事業では、学校支援実践講座を年間3回実施した。交流会実施学級数が増加しており、令和元年9月～12月までに実践講座交流会を小学校・中学校27校121学級で開催した。また、受講場所、曜日を選択できるようにしたことで新規受講者数が増加した。
- ・道徳教育推進教師及び層別3、5年目の希望者を対象に「道徳研修会」を開催し、参加者の92%が活用できるとの回答であった。
- ・特別活動において、自己肯定感を高め、主体的な活動ができるよう、発達段階に応じた指導を推進した。

【方針1】目標1 自分を大切にし、他人を思いやる気持ちなど、豊かな心を育む

【成果指標】



【参考指標】

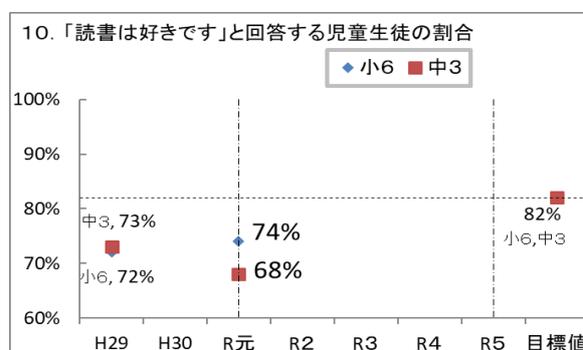
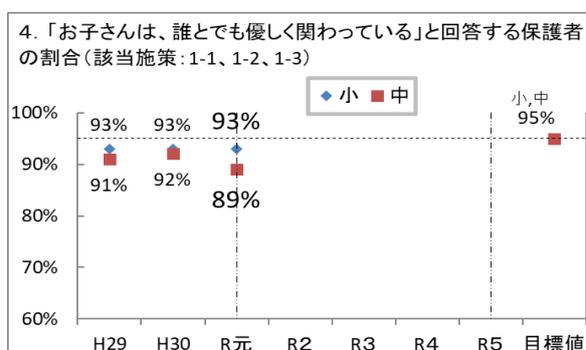


| ▶施策3 読書教育の推進 | 評価 |
|---|----|
| <p>豊かな心を育むために、読書コミュニティ※をはじめとする、多様な読書活動や学習活動での図書を活用など、幼児期からの読書教育を推進します。また、図書館の役割が重要であることから、図書館資料の整備、学校図書館相互や公共図書館とのネットワークの積極的な活用など、図書館機能の充実を図ります。</p> <p>※ 読書コミュニティ…家庭・学校・地域が一体となって読書活動を進め、読書を通じた子育てを進める地域社会。</p> | △ |
| <p>【評価と今後の方向性】</p> <p>施策の実現が図られてきているといえない。</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校図書館を活用した授業時間数は、増加している。また、公共図書館と学校間で行われている図書貸借の数も増加傾向にあり、図書資料が積極的に活用されてきた。(教育センター) 今後は、児童生徒が幅広い図書資料に触れる機会を増やすことで、児童生徒の活字離れを抑制する効果も期待できるため、学校図書館活用の推進に向けて取り組んでいく。(教育センター) | |

【主な事業・取組の実績】

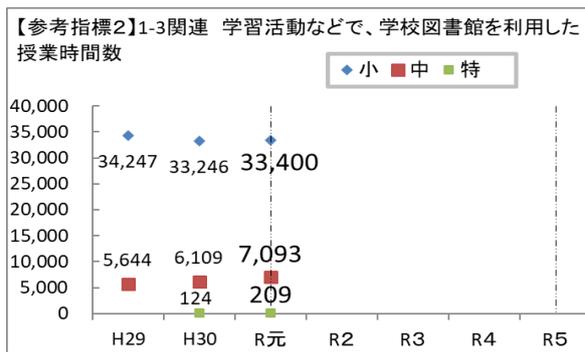
- 学習活動などで、学校図書館を活用した令和元年度の授業時間数は、小学校 33,456 時間、中学校（特別支援学校中・高等部含む）7,246 時間、合計 40,702 時間であり、平成 30 年度と比べて中学校は 1,027 時間、小学校は 191 時間増加した。
- 学校司書設置事業では、主に情報交換、及び図書管理実務に関する研修会を 5 回実施した。
- 各学校では、学校司書や司書教諭を中心に読書活動の推進に努め、読書週間などさまざまな取組を実施した。

【成果指標】



【方針1】目標1 自分を大切にし、他人を思いやる気持ちなど、豊かな心を育む

【参考指標】



【方針1】目標2 主体的に学びに向かい、知識・技能や思考力・判断力表現力等の資質・能力を育成する

目標2 主体的に学びに向かい、知識・技能や思考力・判断力・表現力等の資質・能力を育成する

変化が激しく将来の予測が困難な社会において、自分の人生を切り拓いて生きていくためには、生きて働く知識・技能の習得、未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力、学びを人生や社会に生かそうとする学びに向かう力・人間性の育成が重要になります。

教育委員会では、子どもの発達や成長のつながりを大切にし、学校間のなめらかな接続・連携を図ったり、児童生徒の実態に応じたきめ細かな学習を推進したりするなど、一人一人に寄り添った教育を充実させていきます。また、新学習指導要領の趣旨を踏まえ、開かれた教育課程の実現や主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に取り組みます。

| 施策 | 評価 |
|--------------------------|----|
| 施策1 幼児期における教育の推進 | ○ |
| 施策2 児童生徒の確かな学力を育成する取組の推進 | ○ |
| 施策3 情報教育の推進 | △ |
| 施策4 学校間の連携の推進 | ○ |

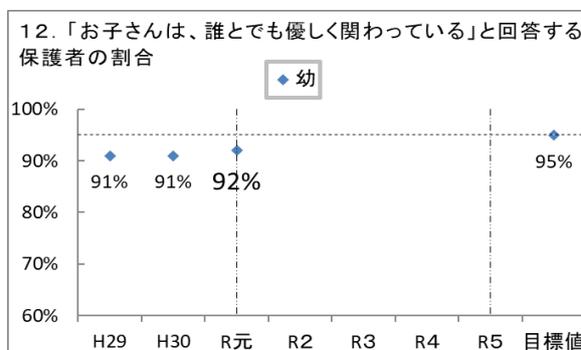
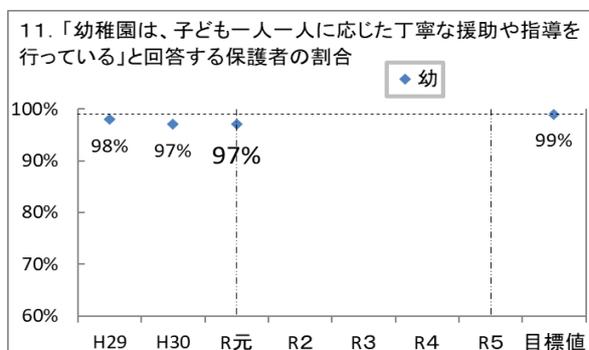
【方針1】目標2 主体的に学びに向かい、知識・技能や思考力・判断力表現力等の資質・能力を育成する

| ▶施策1 幼児期における教育の推進 | 評価 |
|---|----|
| <p>集団生活や遊びを通して、健康な心と体、社会性を身に付けるために、自然や芸術にふれる機会などにより、情緒豊かな心を育みます。また、友だちとの関わりなどから、人と関わる力を身に付け、身近な出来事に興味・関心を持つことにより、意欲や探究心を高めていきます。さらに、子ども一人一人の個性を大切にしつつ、集団生活の中での自己抑制力、道徳性の芽生えを培い、生きる力の基礎を育む教育を推進します。</p> | ○ |
| <p>【評価と今後の方向性】 施策の実現が概ね図られてきている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市立幼稚園のほか私立幼稚園との連携、幼稚園教諭と保育士の交流を進めてきた。また、各種研修を通じて、小学校入学に向けたアプローチカリキュラムの充実に努めてきた。(指導課) ・今後は、引き続き幼稚園への訪問、幼稚園・保育園の交流機会の拡充により、アプローチカリキュラムの実施に努めていく。(指導課) | |

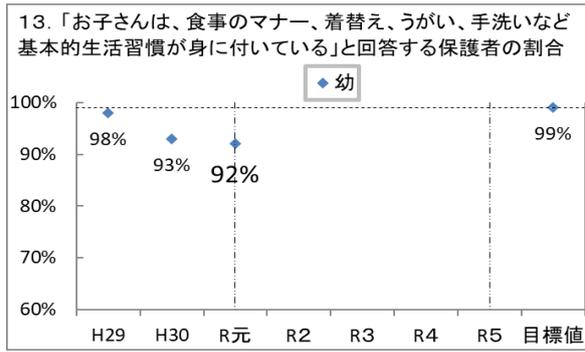
【主な事業・取組の実績】

- ・いちかわ学校三カ年計画について全園長を対象として令和元年10月に面接を実施した。
- ・幼児期の教育や保育の質の向上を図るための研修会を9回、幼稚園主催の実地研修を10回実施した。
- ・アプローチカリキュラム・スタートカリキュラム研修事業では、幼稚園・保育園・小学校の連携を目的として、小1の担任・幼稚園・保育園の年長担任を対象に研修会を1回実施した。また、令和元年6月に取組状況調査を実施した。
- ・幼稚園では、個々に応じた丁寧な指導、幼児理解や援助方法の研修を実施した。
- ・幼稚園での生活を通じて、道徳性や規範意識の醸成を図り、人への思いやりの気持ちを育ててきた。

【成果指標】



【方針1】 目標2 主体的に学びに向かい、知識・技能や思考力・判断力表現力等の資質・能力を育成する



【方針1】目標2 主体的に学びに向かい、知識・技能や思考力・判断力表現力等の資質・能力を育成する

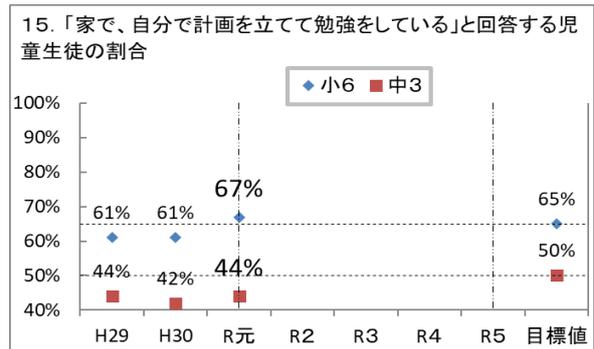
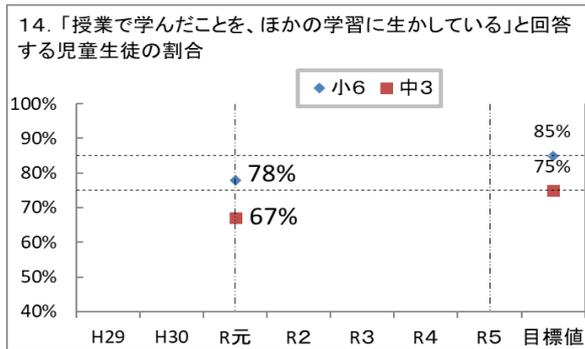
| ▶施策2 児童生徒の確かな学力を育成する取組の推進 | 評価 |
|--|----|
| <p>基礎的・基本的な内容を確実に習得し、個に応じた学びを充実させるために、指導方法の改善と学習環境の整備に取り組みます。また、主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善を図るとともに、身に付けた知識や技能を学習や生活に活用していく力を高めるための問題解決型の学習を充実させます。</p> | ○ |
| <p>【評価と今後の方向性】 施策の実現が概ね図られてきている。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 学力については、地域による学力差も見られるが、地域の特性を考慮しながら各中学校ブロックで課題を分析・共有し、小中一貫教育を推進しながら学力向上に取り組んだ。また、いちかわ学校三カ年計画に本調査の結果をふまえた学力向上、授業改善の取組を盛り込み、継続的な教育指導の充実や授業改善を図ってきた。多くの教科領域で個に応じた学びや主体的・対話的で深い学びを意識した授業を展開してきた。(指導課) • 今後は、個に応じた学びや主体的・対話的で深い学びをさらに進めるため、学力向上推進校を中心に、授業研究などを支援していく。(指導課) • 新たな学習支援システムやドリル学習ソフトを導入した。(教育センター) • 今後は、学習支援システムについては、さらなる活用の推進を図っていく。(教育センター) | |

【主な事業・取組の実績】

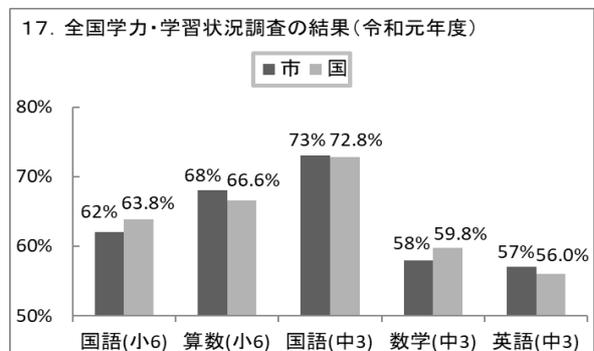
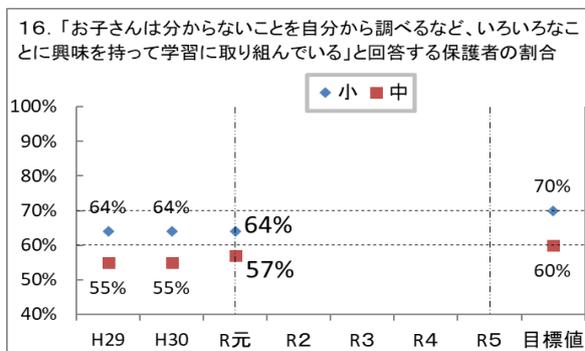
- いちかわ学校三カ年計画について全校長を対象として令和元年10月に面接を実施した。
- 学力向上推進校2年目公開研究会を実施した。
- 習熟度別又は、チームティーチングでの授業展開に加え、所有免許状の範囲内で教科指導を単独で行えるようにした。
- 市内各学校に少人数指導教員を1名又は2名配置した。
- 少人数指導により各学校では授業の充実が一層図られ、児童生徒を興味関心別、課題別、習熟度別などに分け、学習内容や個人差に応じた指導が行えるように体制を整えた。
- 各種作品展事業では、令和元年9月に科学工夫作品展、12月にこども作品展・新聞展を実施した。
- 音楽会活動事業では、令和元年7～12月に地区別音楽会、11月に児童生徒音楽会、12月に合唱・管弦楽フェスティバルを実施した。
- 国語、算数・数学、理科、社会、外国語活動・外国語科の「教科学習改善研修会」を実施した。教職員を対象としたアンケートでは、それぞれ100%近くが活用できる、価値があるとの回答であった。
- 各学校では、家庭学習の手引きを作成したり、中学校ブロックで統一した家庭学習の進め方を策定したりするなど、家庭学習についての指導を行った。

【方針1】目標2 主体的に学びに向かい、知識・技能や思考力・判断力表現力等の資質・能力を育成する

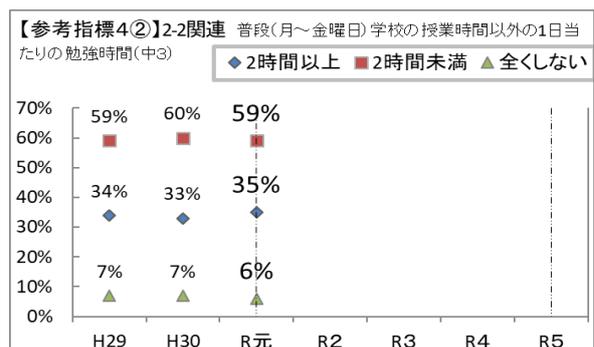
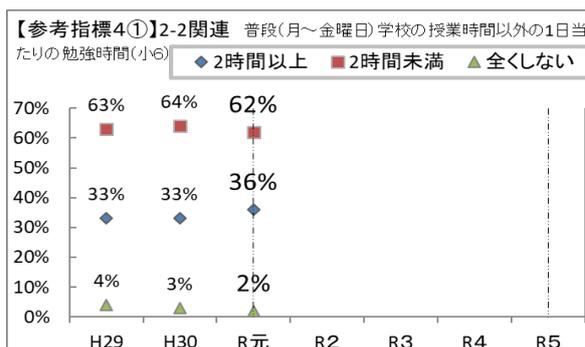
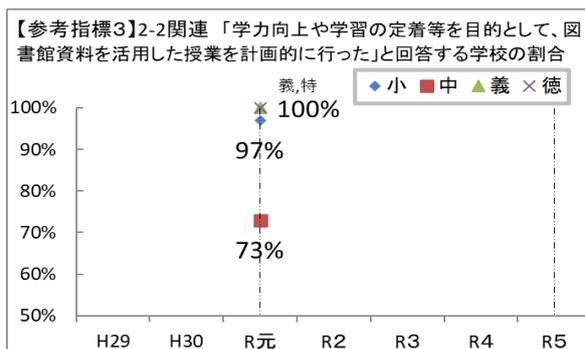
【成果指標】



※平均正答率は、文部科学省の発表に基づき、全国は小数第1位まで、千葉県及び市川市は小数点以下を四捨五入した結果を示している。



【参考指標】



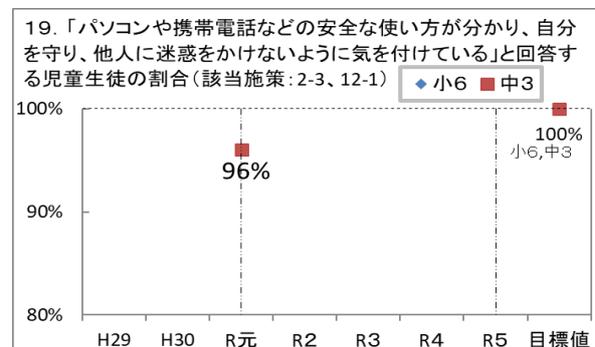
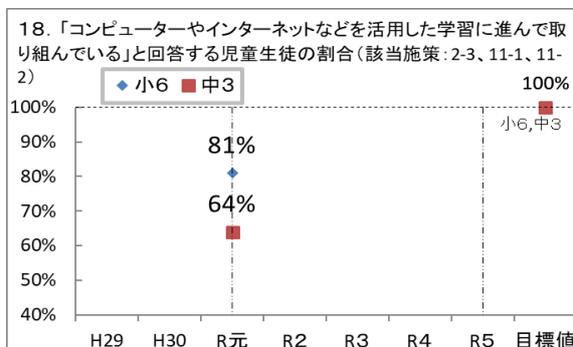
【方針1】目標2 主体的に学びに向かい、知識・技能や思考力・判断力表現力等の資質・能力を育成する

| ▶施策3 情報教育の推進 | 評価 |
|--|----|
| <p>学習の基盤となる資質能力としての情報活用能力を育てます。小学校では、図書資料を活用する力や、情報手段の基本的な操作能力、プログラミング的思考を育て、中学校では、さらに生活や社会における問題をプログラミング的思考によって解決する力を養います。また、情報モラル教育を推進し、情報技術を適切かつ効果的に活用する力、情報社会に主体的に参画しようとする態度を育てます。</p> | △ |
| <p>【評価と今後の方向性】 施策の実現が図られてきているといえない。</p> <ul style="list-style-type: none"> 幅広い教科等で図書館の活用が図られるよう研修を実施し、意識の向上に努めてきた。(教育センター) 今後は、先進的な ICT 活用事例の紹介やプログラミング教育に関する研修を積極的に実施するとともに、各教科等において計画的な学校図書館活用をさらに推進していく。(教育センター) | |

【主な事業・取組の実績】

- 冊子「教育の情報化と ICT を活用した教育について」「市川市版 プログラミング教育の手引き」を作成し、各学校に配付した。
- 教職員研修として、「教育の情報化推進研修会」「プログラミング教育実践研修会 1・2」また、「情報モラル教育研修会」を実施し、それぞれ 100%近くが活用できる、価値があるとの回答であった。
- 図書資料を活用する授業を展開できるように、司書教諭研修会年 1 回、学校図書館研修会年 3 回実施した。
- 4 年目教員対象に学校図書館活用に関する研修会を実施し、図書資料を活用した授業を通して「児童生徒に変容が見られた」との回答が 83%あった。

【成果指標】



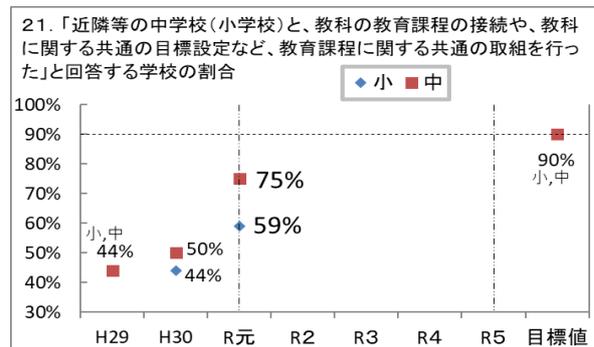
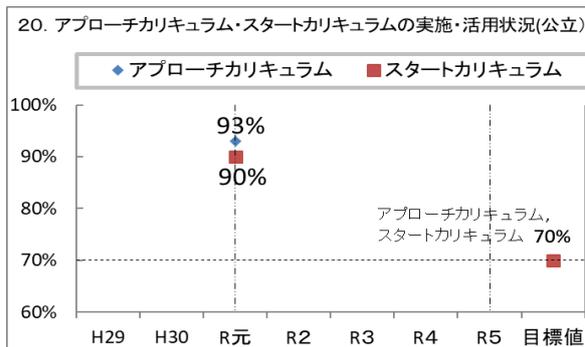
【方針1】目標2 主体的に学びに向かい、知識・技能や思考力・判断力表現力等の資質・能力を育成する

| ▶施策4 学校間の連携の推進 | 評価 |
|---|----|
| <p>子どもの学びや育ちの連続性を強化するために、幼稚園・保育園・小学校・中学校・義務教育学校・特別支援学校・高等学校など、地域での学校間の連携を推進します。また、中学校ブロックを中心とした教職員や子どもの相互交流、授業公開などにより、指導の方法や子どもに関わるさまざまな情報の共有化を図るとともに、人事交流を推進します。</p> | ○ |
| <p>【評価と今後の方向性】 施策の実現が概ね図られてきている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各種研修等を通じて、近隣の幼稚園や高校との共通理解を図ってきた。(指導課) ・今後は、小学校・中学校の連携にとどまらず、幼稚園・高校との連携を引き続き推進していく。(指導課) | |

【主な事業・取組の実績】

- ・市川版中高一貫教育推進事業では、研究部会を1回、学校間連携研修会を2回実施した。
 - ・葛南教育事務所管内5市にて、校種・教科・性別・年齢等をもとに、3年間の人材の交流を行った。他市を経験した帰還者は、学校の中核的な存在である学年主任や教務主任を務め、交流人事は学校組織の活性化と職員の資質向上につながった。
 - ・アプローチカリキュラム・スタートカリキュラム*研修では、幼稚園・保育園・小学校の連携を目的として、小学校1年生の担任、幼稚園・保育園の年長担任を対象に研修会を1回実施し、お互いのカリキュラム等への理解が深まった。(指導課)
- ※ アプローチカリキュラム…幼児期にふさわしい生活を通して、この時期の資質・能力を育み、小学校の生活や学びにつながるように工夫された5歳児10月から修了までの指導計画
 スタートカリキュラム…小学校生活へ適応していけるよう、幼児期の育ちや学びを基にして編成した入学当初の指導計画
- ・教務主任研修会や中学校ブロックで教育課程の接続や教科指導についての情報交換を行った。(指導課)

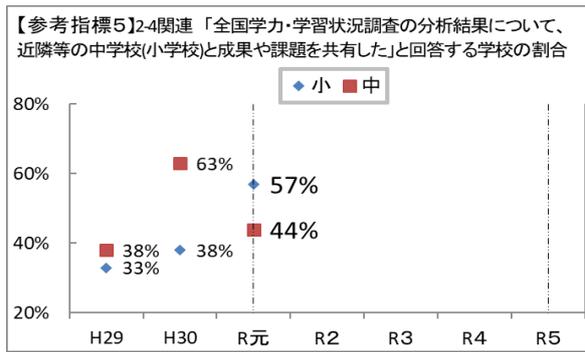
【成果指標】



※アプローチカリキュラムは、「幼児が入学後に経験することが予想される生活の仕方や入学後の生活に近い環境を用意したりすることができた。」について「園全体で取り組むことができた」及び「学年全体で取り組むことができた」と回答した園の割合。スタートカリキュラムは、「児童が幼児期に経験した活動を取り入れたり、幼児期の生活に近い環境を用意したりすることができた。」について「学年として取り組むことができた」と回答した学校の割合。

【方針1】 目標2 主体的に学びに向かい、知識・技能や思考力・判断力表現力等の資質・能力を育成する

【参考指標】



目標3 健康に関する意識を高め、健やかな体を育成する

長寿化に伴う、人生100年時代の到来が予測されており、ますます生涯にわたってたくましく生きるための健康や体力を育成していくことが大切になってきています。

生涯にわたって、健康で充実した生活を過ごすためには、子どもの頃から望ましい生活習慣を身に付け、健康な体をつくることが大切です。

教育委員会では、食を含めた望ましい生活習慣を身に付けるために、健康に関する正しい知識や情報に基づいて、自らの健康について判断できる能力を育てます。また、運動やスポーツに親しむ機会を充実することにより、生涯にわたり健康な生活が続けられる健やかな体を育成します。

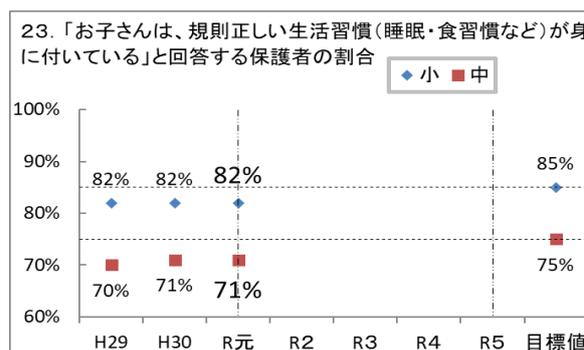
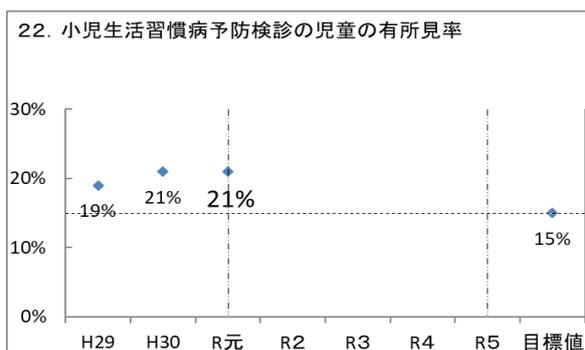
| 施策 | 評価 |
|-------------------------|----|
| 施策1 望ましい生活習慣を身に付ける取組の推進 | ○ |
| 施策2 食育の推進 | △ |
| 施策3 体力向上の取組の推進 | △ |

| ▶施策1 望ましい生活習慣を身に付ける取組の推進 | 評価 |
|---|----|
| <p>健全な生活習慣を身に付けるために、検診や調査に基づき、一人一人の実態に応じた指導・支援を行います。また、家庭・学校が一体となって、「早寝・早起き・朝ごはん」などの生活習慣を身に付ける取組を推進します。</p> | ○ |
| <p>【評価と今後の方向性】 施策の実現が概ね図られてきている。</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和元年度は、再検診の結果が正常となった児童生徒が約20%おり、継続して検診を行うことの結果が見られた。(保健体育課) 今後も引き続き、子どもたちが健康について自ら考え行動できるようにし、望ましいライフスタイルの確立を図るため、家庭、地域と連携を図りながら包括的な健康教育に取り組んでいく。(保健体育課) | |

【主な事業・取組の実績】

- ヘルシースクール*推進事業では、年1回協議会を実施した。市内16校・園をヘルシースクール推進校に指定し、健康教育の推進を図った。
※ ヘルシースクール…子どもたちが健康について自ら考え行動し、体力の向上、生活習慣・食生活の改善を図ることができるようにする取組
- 小児生活習慣病予防検診事業では、小学校5年生児童と前年度有所見だった児童生徒に検診を実施し、有所見者の早期受診や生活習慣の改善につなげた。
- すこやか口腔検診事業では、市内7校を対象に口腔検診を実施し、保護者や学校が子どもの口腔機能の実態を把握した。

【成果指標】



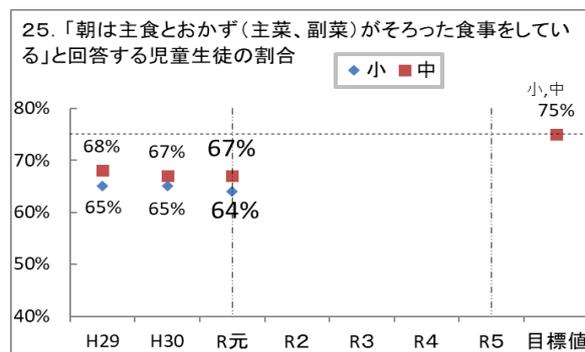
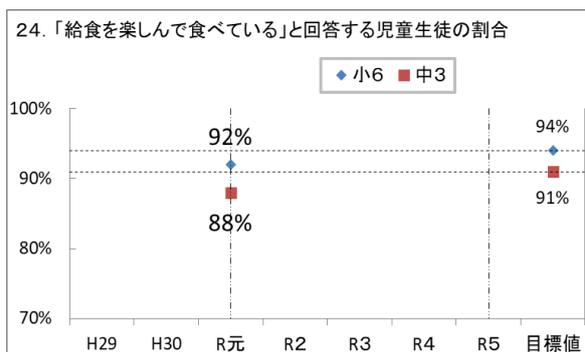
※ 小児生活習慣病予防検診…将来の生活習慣病(糖尿病、高血圧症などの病気)の因子を持つ児童生徒の早期発見と個別指導を目的とする検診。

| ▶施策2 食育の推進 | 評価 |
|--|----|
| <p>望ましい食習慣を身に付けるために、調理実習や農業体験などの体験的な活動を通して、食と健康に関する興味関心を高めます。また、食品の安全性などの知識を習得し、食に関する自己管理能力の育成を推進します。さらに、給食の時間をはじめ、授業や委員会活動などに栄養教諭や栄養職員が積極的にに関わり、「食」に関する指導の全体計画の下、学校教育活動全体で取り組むとともに、家庭と連携して望ましい食習慣を身に付ける取組を進めます。</p> | △ |
| <p>【評価と今後の方向性】 施策の実現が図られてきているといえない。</p> <ul style="list-style-type: none"> 給食指導を中心に家庭科や総合的な学習の時間等さまざまな指導の場面で取り組んできたが、各家庭の状況によるところもあるため、学校の指導だけでは定着は図りきれなかった。（保健体育課） 今後は、家庭との連携を深めるために、保護者対象の給食試食会を開いたり、学習参観で食育を積極的に取り入れたりするなどして、家庭での食育の推進も図っていく。（保健体育課） | |

【主な事業・取組の実績】

- ヘルシースクール推進事業では、各校で残菜量調査を実施し、自分に必要な量をバランスよく食べることの大切さを教えることが食育の基本であることを周知した。
- 学校給食運営事業では、新しい塩分の摂取基準を周知・徹底し、減塩をテーマにした調理実習を実施することにより、適塩でおいしい献立の工夫につなげた。
- 教職員研修事業では、給食主任・栄養教諭・学校栄養職員を対象に、配慮を要する児童生徒への学校給食での関わり方について研修を実施した。

【成果指標】

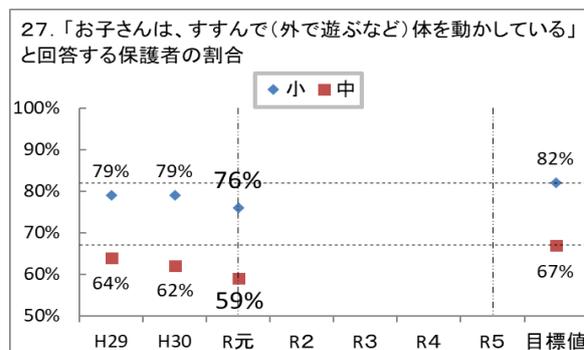
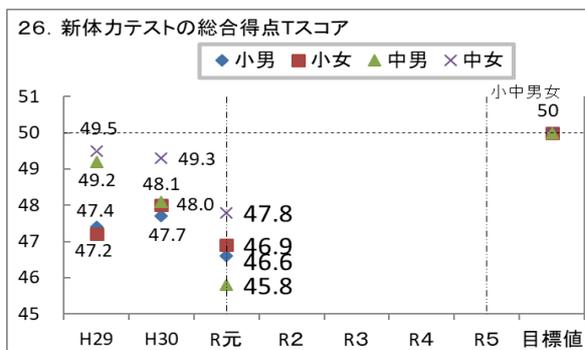


| ▶施策3 体力向上の取組の推進 | 評価 |
|---|----|
| <p>子どもの体力向上を図るため、運動量が十分確保された体育の授業を実施し、休み時間には外遊びができる環境づくりに取り組みます。また、運動部活動の充実を図るとともに、地域のスポーツ指導者などと連携し、子どもが積極的に運動やスポーツに親しむ環境づくりを推進します。</p> | △ |
| <p>【評価と今後の方向性】 施策の実現が図られてきているといえない。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 新体力テストの T スコア（全国平均値：50）を多くの種目で下回っているため、外遊び等、子どもが体を動かす機会を増やすよう啓発するとともに、小学校教員によるボトムアップ型の体力向上プロジェクトの組織を立ち上げ、子どもの体力向上を図ってきた。（保健体育課） • 今後も引き続き、体を動かす機会を増やすよう、啓発に努めていく。また、小学校で立ち上げたボトムアップ型の体力向上プロジェクトを中学校でも立ち上げ、体力向上を図っていく。（保健体育課） • 小学校の若年層教員を対象に「体育実技研修会」実施し、指導技術の伝承につなげてきた。（教育センター） • 今後は、受講者のニーズを取り入れながら、より実践的な研修内容としていく。（教育センター） | |

【主な事業・取組の実績】

- ヘルシースクール推進事業では、各校で新体力テストの実施結果を分析し子どもの体力向上を図った。
- 体力向上推進事業では、新たなプロジェクトを立ち上げ、プロジェクトの内容を各学校に周知した。
- 教員研修事業では、小学校の若年層教員を対象に「体育実技研修会」を2回実施した。受講者全員が、研修内容について、活用できる、価値があると回答した。
- 各学校では、運動の集会や休み時間に外遊びを奨励し、いきいきちばっ子コンテスト「遊・友スポーツランキングちば」へ積極的に取り組むなど、体力づくりを行った。
- 運動部活動では、学校の要望に応じて、部活動等地域指導者の活用を図るなどの環境づくりを行った。

【成果指標】



※ T スコアは偏差値のことで、全国平均値を 50 とした場合の市平均値を示している。

目標4 社会的・職業的自立に向けた能力・態度を育成する

変化の激しい社会を生き抜いていくためには、子どもが夢や希望をもち、人生を前向きに考えていけるようにすることや、発達段階に応じて積み重ねていく学びの中で、地域や社会と関わり、さまざまな職業に出会い、社会的・職業的自立に向けた学びを積み重ねていくことが重要となります。

そのために、学校と社会との接続を意識し、子ども一人一人に、社会的・職業的自立に向けて必要となる能力や態度を育み、キャリア発達を促す教育が必要です。

勤労観や職業観の変化などの社会問題に対応する教育に力を入れることにより、自らの生活や将来を考える力を高め、意欲と実践力を持った子どもの育成を目指します。

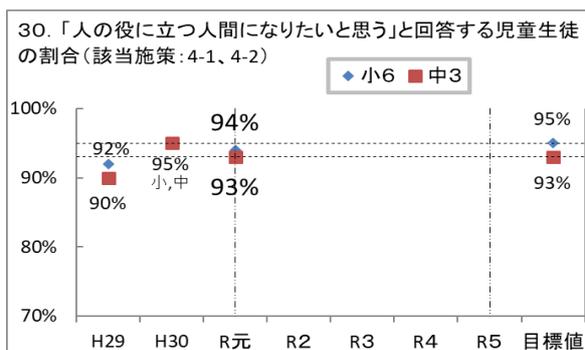
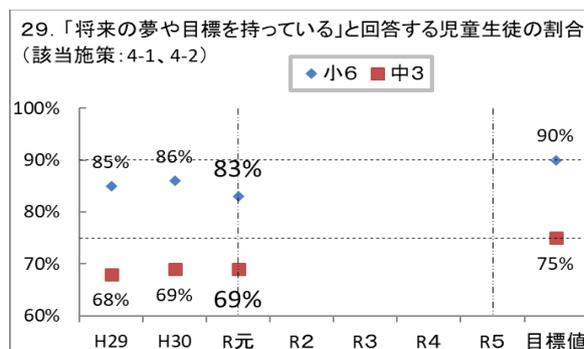
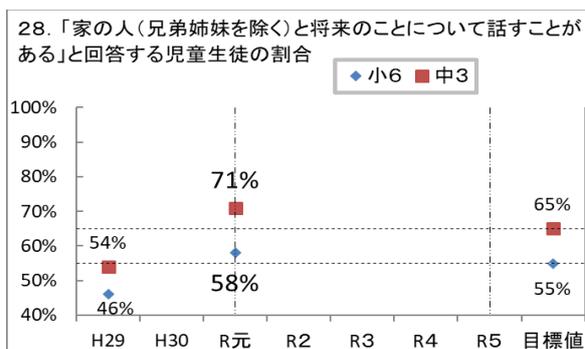
| 施策 | 評価 |
|--------------------|----|
| 施策1 キャリア教育・職業教育の推進 | ○ |
| 施策2 地域や企業との連携推進 | ○ |

| ▶施策1 キャリア教育・職業教育の推進 | 評価 |
|---|----|
| <p>子ども一人一人が、社会的・職業的に自立するために必要となる基礎的な能力や態度を教育活動全体を通じて育成します。</p> | ○ |
| <p>【評価と今後の方向性】 施策の実現が概ね図られてきている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域等の外部人材、企業等との連携の中で学習活動を工夫する学校が増加している。（指導課） ・今後は、令和2年度から完全実施となった「キャリア・パスポート※」を活用し、子ども一人一人のキャリア形成と自己実現を目指していく。（指導課） <p>※ キャリア・パスポート…児童生徒が、小学校から高等学校までのキャリア教育に関わる諸活動について、特別活動の学級活動及びホームルーム活動を中心として、各教科等と往還し、自らの学習状況やキャリア形成を見通したり振り返ったりしながら、自身の変容や成長を自己評価できるよう工夫されたポートフォリオのこと。</p> | |

【主な事業・取組の実績】

- ・学習支援推進事業では、キャリア教育主任・特別活動主任を対象とした「キャリア・パスポート」活用のための研修会を開催し、各校での確実な取組が行えるよう共通理解を図った。
- ・学校支援推進事業では、キャリア教育主任会を令和元年6月に実施した。

【成果指標】

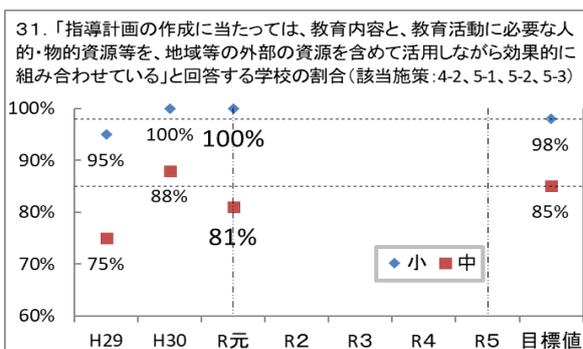
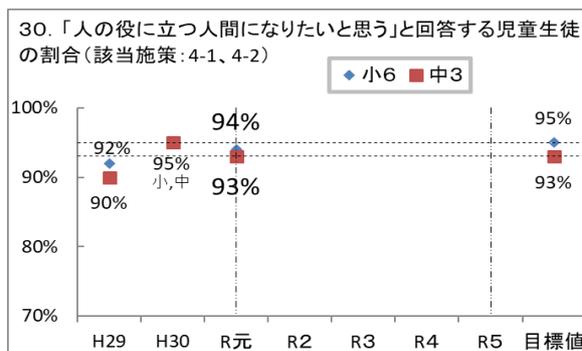
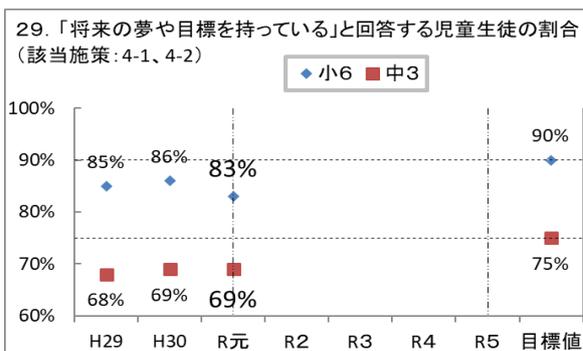


| ▶施策2 地域や企業との連携推進 | 評価 |
|---|----|
| 地域を担う人材育成のために、地域の方々との交流や人材活用、地元企業等における子どもの職場体験、起業体験などを支援します。 | ○ |
| <p>【評価と今後の方向性】 施策の実現が概ね図られてきている。</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域学校協働活動推進委員の活用を促すことで、「学習支援クラブ」による支援体制を活用し、学習活動を工夫する学校が増加している。また、多くの中学校においては、地域の企業等の協力を得て、望ましい勤労観を育む取組を進めてきた。(指導課) 今後も引き続き、「学習支援クラブ」「コミュニティ・スクール地域学校協働活動推進事業」等の事業を活用し、学習活動の一層の充実を図っていく。(指導課) | |

【主な事業・取組の実績】

- 学習支援推進事業では、教育委員会による学校訪問等の際に地域学校協働活動推進員の活用を促した。
- 総合的な学習の時間やキャリア教育の実施にあたって、豊かな体験活動を取り入れるため、地域学校協働活動推進員に依頼し、地域の人材を集める学校が増加した。
- 学校情報化研究事業では、企業と連携し、外国籍の児童生徒のために翻訳アプリを使用した実証実験を行った。

【成果指標】



目標5 家庭・学校・地域の教育力の向上に向けた取組を推進する

教育は、家庭・学校・地域の相互の取組によって担われるものであり、子どもは、社会全体で育まれます。

これまでも、学校は、家庭や地域との連携を図り、人々の積極的な協力を得て、さまざまな教育活動を実践してきました。

今、学校が教育目標を達成するためには、「社会に開かれた教育課程」の理念の下、保護者や地域の方々とともに子どもを育てていくという視点に立つことが重要です。

そのために、これまで教育委員会が進めてきた家庭・学校・地域が一体となって地域全体で教育に関わる「つなぐ教育」をさらに継続・発展させます。

今後、より一層、保護者や地域の方々と目標やビジョンを共有し、家庭の役割や責任を明確にした具体的な連携を強化するとともに、地域と連携・協働し、地域と一体となって子どもを育む、地域とともにある学校への転換を進めます。

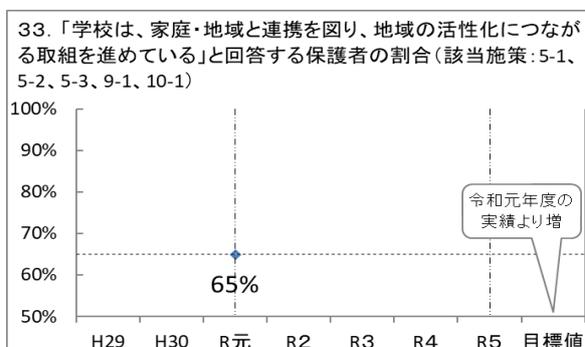
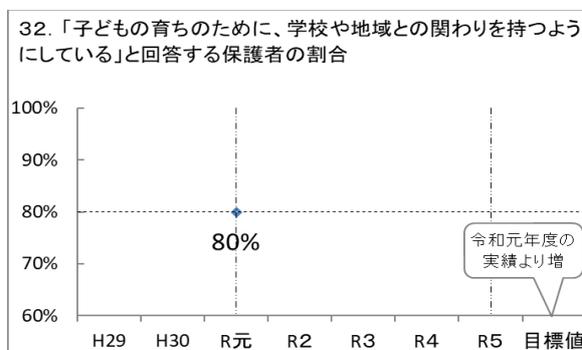
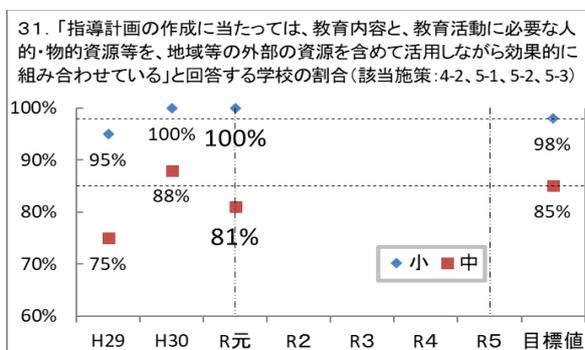
| 施策 | 評価 |
|----------------------------|----|
| 施策1 学校・地域と連携・協働した家庭の教育力の向上 | ○ |
| 施策2 家庭・学校と連携・協働した地域の教育力の向上 | ○ |
| 施策3 家庭・地域と連携・協働した学校の活性化 | ○ |

| ▶施策1 学校・地域と連携・協働した家庭の教育力の向上 | 評価 |
|--|----|
| <p>学校、PTAなどと家庭との連携を強化し、基本的な生活習慣、豊かな情操、他人に対する思いやりや善悪の判断などを家庭で身に付ける重要性の啓発に取り組みます。また、家庭学習の習慣化を図るため、学校と連携した取組を進めます。さらに、家族の関わりを深めるための取組を支援します。</p> | ○ |
| <p>【評価と今後の方向性】 施策の実現が概ね図られてきている。</p> <ul style="list-style-type: none"> 家庭教育指導員の派遣や家庭教育学級の開催により、家庭の教育力の向上を図ってきた。(学校地域連携推進課) 今後は、保護者の参加しやすい学びの場の在り方を検討していくとともに、指導員派遣講座の多様化を図り、保護者が学ぶことのできる場を増やしていく。(学校地域連携推進課) | |

【主な事業・取組の実績】

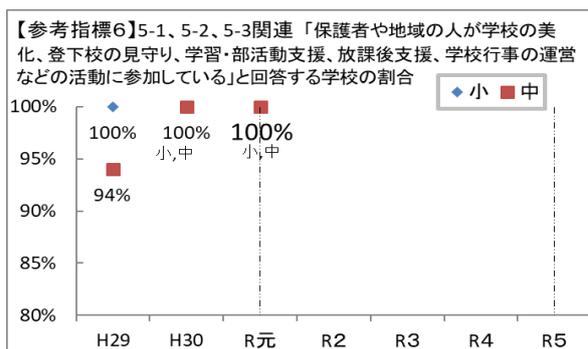
- 家庭教育学級運営事業では、家庭教育指導員による「指導員派遣講座」を61回実施した。指導員派遣講座における参加者のコミュニケーションを図るプログラムを充実させた。

【成果指標】



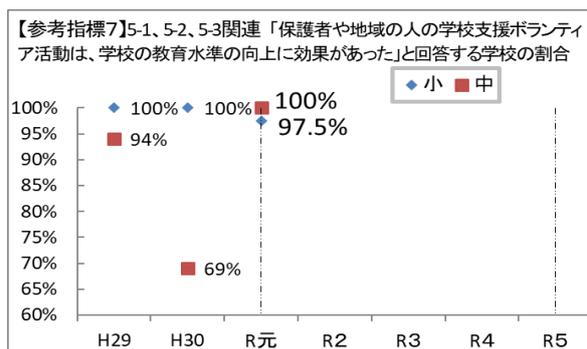
【方針1】 目標5 家庭・学校・地域の教育力の向上に向けた取組を推進する

【参考指標】



※第3期計画策定時から変更あり

策定時：「学校では、PTAや地域の人が学校の諸活動（学校の美化、登下校の見守り、学校行事の支援など）にボランティアとして参加してくれる」と回答する学校の割合



※第3期計画策定時から変更あり

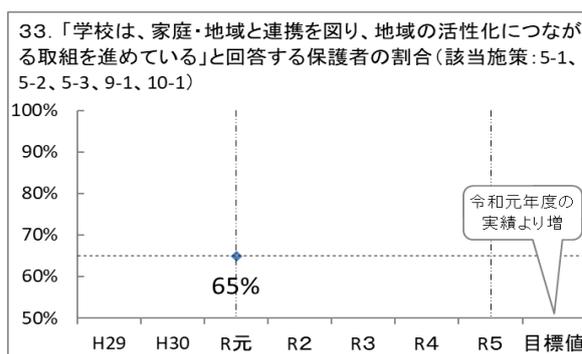
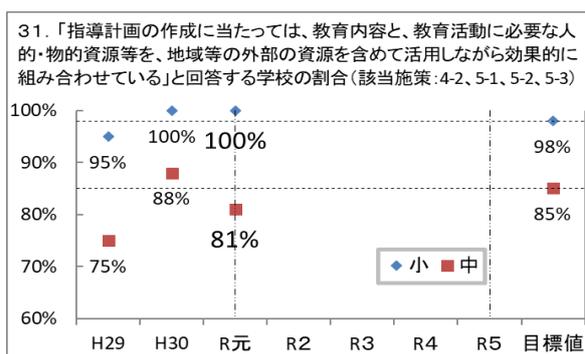
策定時：「保護者や地域の人々の学校支援ボランティア活動は、学校の教育水準の向上に効果があった」と回答する学校の割合

| ▶ 施策2 家庭・学校と連携・協働した地域の教育力の向上 | 評価 |
|--|----|
| <p>学校を核とした地域のコミュニティづくりのために、より多くの人が集い、つながる場づくりを進めます。また、家庭・学校・地域のさまざまな活動を支援する地域学校協働活動推進員の育成に取り組みます。さらに、企業やNPOを含むさまざまな関係機関との連携・協働体制を構築し、互いの知識や人材を活用して、家庭・学校・地域における協働活動を推進します。</p> | ○ |
| <p>【評価と今後の方向性】 施策の実現が概ね図られてきている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティ・スクールとしての機能を活用し、学校運営協議会では、家庭・学校・地域が連携・協働して、子どもたちを育てていこうという意識が高まってきた。(学校地域連携推進課) ・今後は、学校運営協議会の内容や出された意見を教職員や保護者、地域住民で共有し、三位一体となって子どもたちを育てる体制づくりに努めていく。(学校地域連携推進課) | |

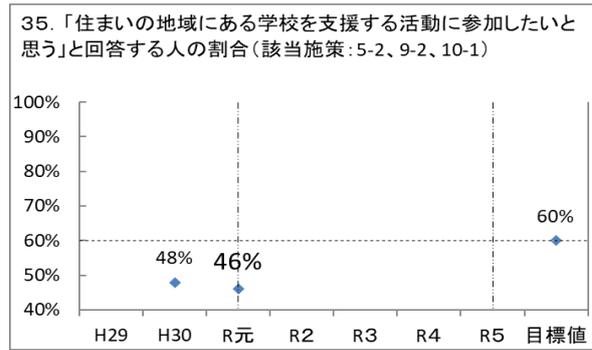
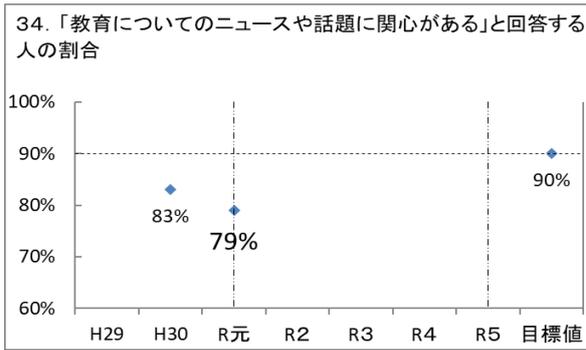
【主な事業・取組の実績】

- ・コミュニティ・スクール学校運営協議会運営事業では、地域住民・保護者の代表が一堂に会し、学校長（園長）が目指す運営方針に承認をすることで、同じビジョンのもと、子どもたちを中心とした協議を重ねてきた。
- ・コミュニティ・スクール地域学校協働活動推進事業では、8つの中学校ブロックにおいて、地域学校協働本部を設置した。また、地域学校協働活動推進員を全校に配置し、教育委員会主催の研修会を年3回行った。17校に複数（2名）の配置を行った。

【成果指標】

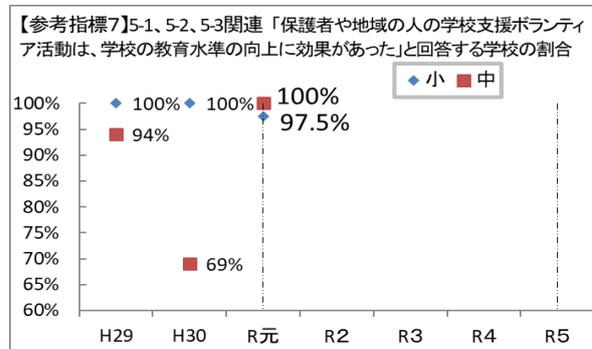
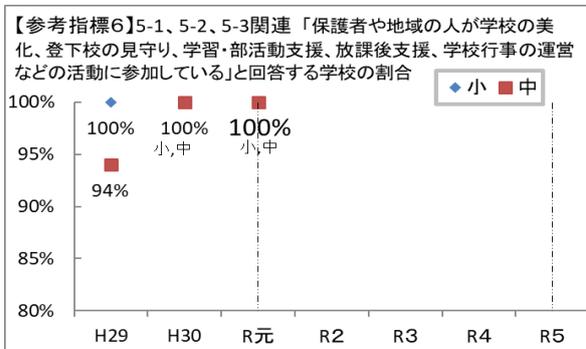


【方針1】目標5 家庭・学校・地域の教育力の向上に向けた取組を推進する



※第3期計画策定時から選択肢を一部変更。
 策定時：「関心がある」「ある程度関心がある」「あまり関心がない」「関心がない」「わからない」
 変更後：「とても関心がある」「関心がある」「あまり関心がない」「関心がない」「どちらともいえない」

【参考指標】



※第3期計画策定時から変更あり
 策定時：「学校では、PTAや地域の人々が学校の諸活動（学校の美化、登下校の見守り、学校行事の支援など）にボランティアとして参加してくれる」と回答する学校の割合

※第3期計画策定時から変更あり
 策定時：「保護者や地域の人々の学校支援ボランティア活動は、学校の教育水準の向上に効果があった」と回答する学校の割合

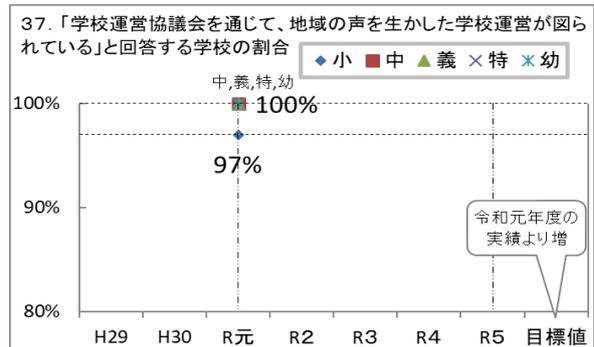
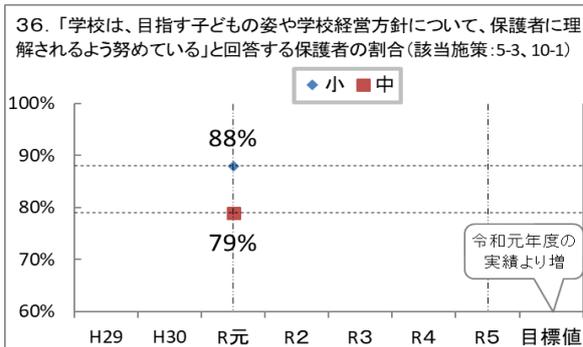
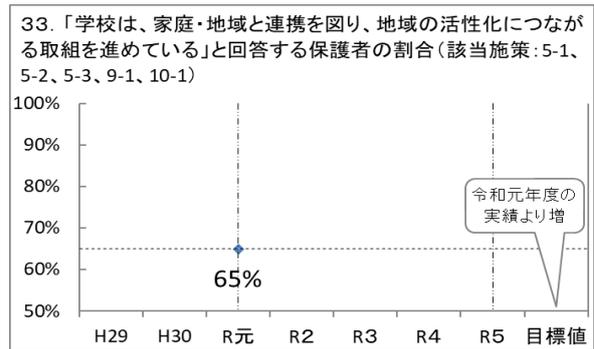
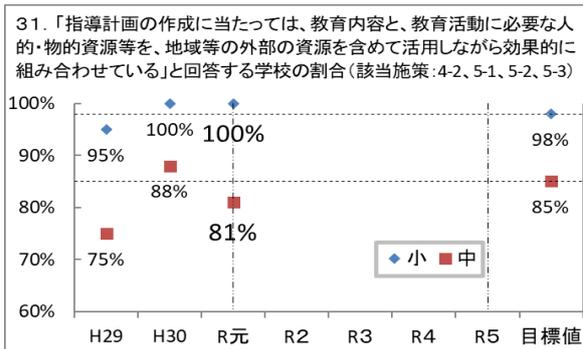
| ▶施策3 家庭・地域と連携・協働した学校の活性化 | 評価 |
|--|----|
| <p>学校だより、ホームページ、学校公開、公開研究会などによる積極的な情報の発信を通して、保護者や地域の方々の学校への関心を高め、学校の教育活動や環境整備などに、より多くの人に関わることができる機会を充実させます。また、学校と家庭、地域の代表者で構成される学校運営協議会を活用し、地域とともにある学校づくりを目指します。</p> | ○ |
| <p>【評価と今後の方向性】 施策の実現が概ね図られてきている。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 学校の状況は、学校だより、保健だより、給食だより等で情報発信してきた。(義務教育課) • 今後は、年度当初に掲げた「目指す子どもの姿」、「学校経営方針」に基づいた現状と成果に触れて、継続的に発信していけるよう、改善を図っていく。(義務教育課) • 学校運営協議会においては、委員同士の連帯感が強まり、学校や地域の課題を共有してきた。(学校地域連携推進課) • 今後は、必要な時に、すぐに集まれる体制づくりの構築を進めていく。(学校地域連携推進課) • 学校ホームページを充実させるとともに、さまざまな機能を備えた保護者一斉メールを新たに導入した。(教育センター) • 今後は、情報提供等に新たな機能を積極的に活用していく。(教育センター) • 各学校とともに、地域と連携した取組を工夫してきた。(指導課) • 今後は、地域との連携や家庭との協力を得られるように、各学校に助言を行っていく。(指導課) | |

【主な事業・取組の実績】

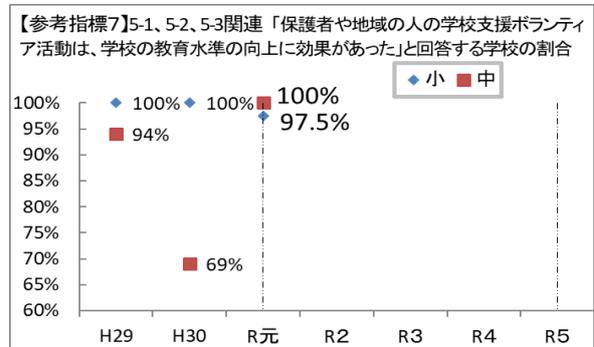
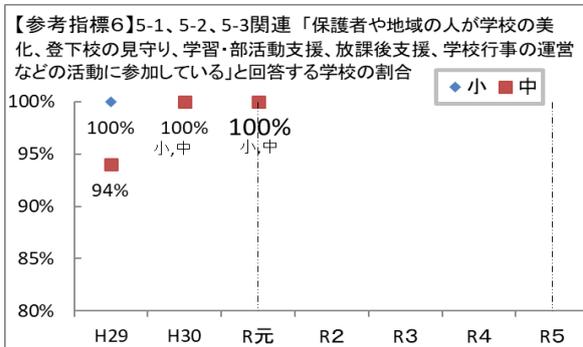
- 学校情報化研究事業では、学校ホームページの更新作業を充実できる機能と、さまざまな機能を実装した保護者一斉メールを新たに導入した。
- コミュニティ・スクール学校運営協議会運営事業では、全幼稚園・学校の学校運営協議会の開催回数は平均 4.7 回だった。「学校運営の基本方針」の承認事項をはじめ、「学校評価」について年 2 回協議し「学校関係者評価」を行い、幼稚園・各学校においてそれぞれの現状と課題について共有した。また、中学校ブロック合同開催は 9 ブロック（15 中学校ブロック・義務教育学校区中）のうち、第六中学校ブロック及び高谷中学校ブロックは年 2 回開催した。中学校ブロック合同の学校運営協議会では、「子どもたちの安全・安心」に関することや「あいさつ」、「地域学校協働本部の設置に向けて」の協議や意見交換が行われた。
- コミュニティ・スクール地域学校協働活動推進事業では、8 つの中学校区において地域学校協働本部を設置した。5 つの本部において 8 回のコミュニティカレンダーを発行した。2 つの中学校区においては試行版を発行した。

【方針1】目標5 家庭・学校・地域の教育力の向上に向けた取組を推進する

【成果指標】



【参考指標】

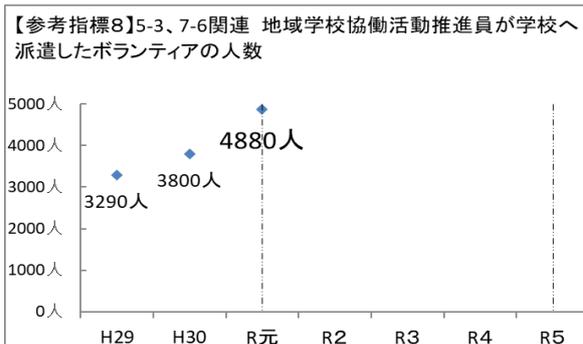


※第3期計画策定時から変更あり

策定時:「学校では、PTAや地域の人々が学校の諸活動(学校の美化、登下校の見守り、学校行事の支援など)にボランティアとして参加してくれる」と回答する学校の割合

※第3期計画策定時から変更あり

策定時:「保護者や地域の人々の学校支援ボランティア活動は、学校の教育水準の向上に効果があった」と回答する学校の割合



※ 地域学校協働活動推進員…学校と地域を結ぶコーディネーター。